

がん薬物療法の適正使用に基づく安全確保と患者サポート

～大垣市民病院薬剤部における取り組み～

外来化学療法や経口抗がん薬による継続的な治療が増加するに連れ、副作用の早期発見、早期対処、服薬アドヒアランスの向上がより重視されています。地域がん診療連携拠点病院である大垣市民病院では、がん専門薬剤師が中心となり「通院治療センター」「薬剤師外来」にて、がん患者の治療サポートをしています。その活動内容について、薬剤部長の吉村知哲先生、薬剤部主査の郷真貴子先生、薬剤部主任の伊藤大輔先生に伺いました。

安全・安心のがん医療を支える「見える化」と「研究チーム制」

▶▶ 薬剤部が注力している取り組みについてお聞かせください。

吉村 薬剤部では、「見える化」と「研究チーム制」の2つを意識して取り組んでいます。目標を明確にして数値化する「見える化」では、持参薬の鑑別、ハイリスク薬の指導、退院時の指導などの件数を記録・分析し、薬剤師別の評価をしています。

「研究チーム制」は、薬剤師の業績を形として残すことを目指した取り組みです。現在12チーム（感染制御、オンコロジー、中毒など）があり、学会発表や論文投稿と資格の取得を推進しています。

現在、重点を置いている業務の一つはがん薬物療法です。「安全・安心ながん医療への貢献」を薬剤師の基本と考え、日々活動しています。レジメン登録から薬剤の適正使用までのシステム化による医療安全に加え、副作用マネジメントなどの知識、スキルに関しては、専門・認定薬剤師が中心となって安全を担保しています。がん専門薬剤師は2017年9月現在13名おり、病棟だけでなく、「通院治療センター」「薬剤師外来」の業務にも当たっています。

患者さんや医療スタッフとコミュニケーションを密にとることで、患者さんの「安心」に貢献するよう心がけています。

チームで臨む通院治療センター

▶▶ 通院治療センターの業務についてお聞かせください。

吉村 通院治療センターは、外来化学療法を安全かつ適正に管理し、治療を行う部門として、2007年に30床で開設されました。薬剤師は1日2名が各曜日を担当し、がん専門薬剤師7名を含む10名を配置しています。

伊藤 治療は予約制のため、治療前日までに担当患者さんの治療内容（減

量の有無、前投薬などの情報）や状態、経口抗がん薬の投与量や日数などについて、電子カルテや薬剤指導記録で確認、予約患者一覧表に記載し医師に情報提供しています。

治療当日は、看護師のアセスメント内容を「患者情報シート」（図表1）で確認します。更に、見落としがないように、薬剤師もベッドサイドで患者さんの副作用の発現状況を確認するとともに、薬効を評価しながら、支持療法の継続・変更や副作用対策について検討し医師に提案します。

▶▶ 支持療法の提案は、どのようにされるのですか。

伊藤 副作用ごとにオリジナルで作成した「支持療法マニュアル」に従い、薬

剤師が処方提案を行います。悪心や嘔吐など対象となる副作用項目ごとに、注射薬、内服薬の変更や追加が示されています。

外来がん治療の充実を目指した薬剤師外来

▶▶ 薬剤師外来の業務についてお聞かせください。

郷 薬剤師外来は、経口抗がん薬単剤療法を行う患者さんが安全に治療継続できるよう支援する目的で2013年にスタートしました。現在、薬剤師2名体制で、消化器外科、乳腺外科、頭頸部・耳鼻いんこう科、泌尿器科の4科・14品目を対象に行っています。

初回は医師の診療後に服薬指導を行います。電子カルテより必要なデータを収集し、抗がん薬ごとの管理表（図表2）に記入しながら投与量が適切であるか確認します。

面談では患者さんの不安を取り除けるようわかりやすい指導を心がけています。その際に緊急対応策として電話相談があることも伝えます。電話での相談内容は副作用や他の薬剤との相互作用に関するものが多くあります。

2回目以降は、医師の診察前に面談



主査
郷 真貴子 先生
(がん専門薬剤師)

を行います。服用状況や副作用の有無を確認し、問題点があれば解決できるよう支援します。患者さんも一度出現した副作用に対しては慎重になりますが、他の副作用に関しては忘れがちです。ですので繰り返し説明を行うようにしています。

▶▶ 支持療法の提案はどのような内容が多いですか。

郷 皮膚障害に対する外用薬（ステロイド軟膏や保湿薬）や止瀉薬などの提案が多いです。特に分子標的薬の副作用マネジメントには難渋することもあります。支持療法薬をどう使うかが薬剤師の腕の見せ所ですので、症状をよく聞いて患者さん一人ひとりに合わせて提案し副作用による治療中断がないよう努めています。副作用によっては通院間隔の短縮を提案することもあります。

また、私はNSTの一員としても活動していますので食事摂取量や体重、血清アルブミン値などを毎回確認し、必要に応じて栄養剤を提案しています。

これら様々な提案を行っていますが、その内容には責任を持たなければなりません。必ず効果を確認し、不十分であれば変更や追加を行います。薬効だけでなく提案した薬自体の副作用にも注意を払う必要があります。エビデンスが少ないとされる支持療法においては、患者さんとの関わりを通じて学ぶことが多く、臨床経験を積むことの大切さを感じます。

薬剤師外来を開始して4年が経ちます。開始前、ある薬剤の術後補助療

法治療完遂率は39.4%でしたが、開始後は82.5%と上がりました。薬剤師による継続的な介入が服薬アドヒアランスの向上に貢献できたことは大きな成果であり、今後

のモチベーションに繋がるものと捉えています。

がん患者さんを支えるべく更なるスキルアップを目指す

▶▶ 今後の構想や抱負をお聞かせください。

伊藤 緩和ケア外来にて麻薬などが処方されている患者さんでは、麻薬の副作用か、がん治療による副作用か見極めるのが困難な場合もあります。緩和ケア外来とも連携して更に安全な薬物療法を担っていきたいと考えています。

郷 将来的には、ホルモン薬を含む全ての経口抗がん薬に対して薬剤師外来を行いたいと思っています。今年度より残薬調整にも力を入れています。がん薬物療法においては「適切な休薬」が存在しますのでどうしても残薬が生じてしまいます。経口抗がん薬は高価なものが多く、残薬調整による医療経済効果は高いと考えます。病院薬剤師ができる取り組みの一つとして今後も継続したいと思います。

吉村 患者さんに安心して薬物治療を受けてもらうためには、薬剤師は薬の知識やスキル向上にとどまらず、コミュニケーション能力が不可欠です。チーム医療においてリーダーシップが取れる薬剤師を目指す上でも、コミュニケーション能力をより一層磨いていけるよう指導していきたいです。



主任
伊藤 大輔 先生
(がん専門薬剤師)

図表1 患者情報シート

図表1 患者情報シート

- 看護師による副作用チェック (CTCAE v4.0によるgrade評価)
例) 悪心 Grade2
嘔吐 Grade1
便秘 Grade1
- 具体的な内容は看護師が自由記入欄に記載
例) 「末梢神経障害」では
・箸が持てない
・ボタンが掛けにくい など
- 薬剤師が支持療法の提案内容を記載
- 医師の承認後、医師により処方オーダーされる

提供：大垣市民病院薬剤部

図表2 経口抗がん薬管理表の例（項目のみ抜粋）

図表2 経口抗がん薬管理表の例（項目のみ抜粋）

- 投与開始前チェック項目 (初回)
 - 前治療歴
 - 副作用歴
 - 現在の内服薬
 - アレルギー歴
 - 肝機能、腎機能
 - 問診事項（日常生活について）
 - 患者説明事項
- 副作用モニタリング項目 (2回目以降)
 - 次回申し送り
 - 評価・処方提案
 - スキンケアの実施状況
 - 服薬アドヒアランス
 - 副作用・HFS*の症状
 - 高血圧
 - その他の自覚症状

* Hand-Foot Syndrome: 手足症候群
大垣市民病院薬剤部の資料をもとに作成

大垣市民病院
岐阜県大垣市南瀬町4-86

開設：1959年
院長：金岡祐次
病床数：903床
診療科：29科
薬剤師数：56名



(2017年9月現在)